

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 12月 9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600164
法人名	有限会社 花
事業所名	ふれあいホーム花
所在地	鹿児島県阿久根市西目6283-2 (電話) 0996-72-7171
自己評価作成日	平成26年10月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境で、海、山が近く自然が豊である。食材も海の幸、山の幸に恵まれ、新鮮な魚介類を地元の魚屋から週3回は鮮魚を購入している。毎週日曜日はお刺身を提供し、毎年ホームでウニ井祭りも開催している。竹の子山やみかん山もあり、春は竹の子やツワブキを使用した煮染めや炒め物など、近くの菜園で収穫した無農薬の野菜など使用して食事を提供し喜んで頂いている。肉類は近所の肉屋さんにお願ひし、黒豚や地元の黒毛和牛を購入し柔らかく安心して美味しい物を使用している。利用者の人権を尊重し、理念にある優しさを常に念頭におき、ホームに車を駐めたら笑顔で挨拶やケアができるように昨年1年は取り組み、今年は身だしなみや言葉遣いが良くなるように目標を決めて、スタッフ全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの入り口から庭に続く場所には色とりどりの花や実のなる木が植えられており、来訪者や利用者の目を楽しませている。鳥のさえずりや、自家農園の野菜の成長や収穫を通して自然を肌で感じ取れるのどかな環境である。玄関、廊下、居室、風呂場、トイレなどホーム全体で清潔が保たれており、日頃の管理者、職員の清掃管理への意識の高さと利用者が清潔な環境で気持ちよく生活が出来ている状況が伺える。職員は「優しさ・温もり・楽しみ・ふれあい・美味しさ」の5つの理念の中身をしっかりと理解しており、優しさを持って、暖かい気持ちで家族の身になって、利用者が生きがいを感じ取れる生活を支援している。職員同士も和気あいあいとしており、年2回の慰安会も全職員が一堂に参加できるように管理者の配慮があり、職員間の良好なコミュニケーションや管理者との信頼関係の深さがサービスの質の向上に大いに繁栄していることは、職員の聞き取りや家族の感謝のアンケートからも感じ取れる。平成16年に1号棟開設、24年には2号棟を増設しており、自治会や運営推進会議などをパイプに地域との繋がりも出来てきている。生き生きサロン、運動会、盆踊りなどへの参加は恒例となっており、ホームの多目的ホールを開放してヨガ教室やボランティアの踊りの慰問、災害時の地域の避難場所の用意もあるなど、双方で協働の関係も構築され着実に地域に根付いてきているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、5つの理念と内容をスタッフ1人ひとりが確認し、声に出して読み上げている。	5つの理念を掲げている。職員は理念を根幹に年間目標を立て勉強会を通してアンケートを出し合い、達成度を評価しており、理念がより密接なケアにつながる取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の生き生きサロンへの参加や運動会などの行事に、地区区長さんや民生委員さんより声をかけて頂き、参加できている。	自治会や運営推進会議が地域とのパイプになっており、生き生きサロンや地区の運動会等への参加もしており、ホームの多目的ホールはヨガ教室の開催や非常災害時の地域の避難場所としても開放している。双方での情報共有や協働の関係が出来ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ホームにいるキャラバンメイトにより職員、運営推進員、地域の人達や、家族に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の夜間想定時の消防訓練にも参加していただき、意見を伺いながら次のステップに生かせるようにしている。	家族、行政の他、毎回、地域住民の参加を多く得られており、夜間想定避難訓練を合同で行うなど協力体制も築いてきている。民生委員の発案で緊急時連絡網を作成し実際に連絡網を流す訓練もしており改善するなど出された意見や要望は実践に取り入れ、サービスの質の向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会や地域密着型サービス連絡協議会を立ち上げてもらい、市町村や他施設との協議や情報交換ができ助かっている。	運営推進会議への参加も得られており、ホームの現状報告や地域情報の収集など双方で連携が採れている。市の依頼を受け、来年には徘徊模擬訓練を実施する計画もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開催し、身体拘束時の手順など理解し、できるだけ身体拘束を行わない方向でケアを実施して行くように取り組んでいる。	職場のホスピタリティとして年に1回アンケートを採り言葉遣いも含めて接遇の勉強会に取り組んでいる。管理者は現場での気付きはすぐに注意をしており、職員も身体拘束に対しての意識や知識は高く持ったケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、利用者への身体、精神的虐待を起こさないようスタッフ同士、話し合いや勉強会を持ち虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村主催の成年後見制度の勉強会に参加する予定もあり、成年後見制度について理解を深め必要があれば活用支援できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は、家族に契約書の説明を実施している。分からない部分がなかったか確認をし署名、捺印をお願いしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中や家族の面会や家族会時、希望を聞き、できるだけ利用者本人や家族の希望を叶えることができるように取り組んでいる。</p>	<p>面会時や受診時、家族会の時などを意見や要望の聞き取りの大事な機会と捉えており、出された意見や要望は職員間で共有し、改善に向けている。認知症に対しての家族の理解を深める為の講座も開いたり、毎日の生活を記録した月刊記録を通信に添えるなどし、遠方の家族にも詳しい様子が伝わる努力をしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務の中やミーティングで職員の意見や問題点を聞き、できる部分は運営に反映している。</p>	<p>職員間で「連絡ノート」や全員参加のミーティング、申し送りなどで情報の共有を密にしている。職員向けのアンケートをとり、意見や要望を出す工夫もしており、問題点はその都度、管理者を通し全員で話し合いサービスの改善に繋げる努力をしている</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の免許習得や勤務状況により、給与水準や介護処遇改善交付金の料金を決めている。勤務態勢も職員の希望を取り入れ作成し、働きやすい職場環境になるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に入り他施設との交流や勉強会に参加している。介護福祉士やケアマネジャーの資格習得も勧められている。介護福祉士は来年度4名受験予定である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に入り他施設との交流や勉強会に参加し情報交換も行っている。事例、研修発表も実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	はじめの面接時、利用者が安心して生活していただけるよう、誠意を持って聞き取りをし、本人が困っていること希望していることなど、多くの情報収集ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族の生活歴を伺い、本人家族の思いを大切にしたい関係作りができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族に関する施設での支援に対する希望を伺い、安心して生活していただけるようにケアプランに活かし、ケアを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声を十分に聞く姿勢をとり、状態を観察しながら、一緒に掃除や下膳、洗濯干しなど行い、なじみの関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの贈り物や写真など目に付くところに置き、家族の存在を確認してもらえよう話題に上げたり、家族の面会時は最近の状況を詳しく伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚などできるだけ交流が途絶えないように、面会をお願いしたり法事などの外出の機会を作ってもらっている。	親戚や、近所の知人が押し車を押しして遊びに来ることもある。馴染みの移動販売車が来て買い物や会話を楽しんだり、家族と墓参りや、法事その他、自宅に帰る利用者もおり、馴染みの人や場所との関係継続が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ気の合う利用者と一緒にテーブルに着いていただいたり、利用者同士で肩もみをしたり、具合の悪い方には、心配し優しく声を掛けて下さる場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方のお見舞いや、家族の今後の対応など相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	名前の呼び方や、生活習慣を聞き、飲酒や喫煙などできるだけ希望を叶えることができるように取り組んでいる。	意思疎通が可能な利用者も多いが、困難な場合は問いかけを中心に表情や所作から思いの汲み取りが出来るように努めている。煙草や酒などの嗜好品やお茶の熱さ加減など個々に合った対応をし希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者日々の会話の中で、これまでの生活歴を把握し、会話の中に取り入れ、なじみの関係が築けるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの能力に応じて、家事を手伝っていただいたりして、生活動作の維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にホームでの生活について希望を聞きながら、職員とカンファレンスを持ちその人らしいケアプランを作成している。	介護記録や連絡ノートで日々の利用者の状態を把握しながら、本人、家族の意向や要望を取り入れたプラン作成になっている。往診時に主治医の指示を仰ぎ、担当職員により毎月のモニタリングを通して、状態変化に応じ都度の見直しも行い現状に即した介護計画の作成をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、連絡ノートを活用しケア方法やアイデアを共有しスタッフ全員一丸となってケアに取り組むことができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の急なトラブルなどすぐに対応できるように連絡体制や対応の指示などできるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の区長や民生委員、運営推進委員の方々の、強力を得ながら地区の行事に参加し、利用者は楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な場合は、家族に連絡を取り、眼科や歯科など専門医を受診している。急な病状の変化時は、掛かり付け医との連携により迅速な対応ができています。	入居前からの掛りつけ医の支援もしており、月に1回は定期往診がある。受診は他科受診を含め家族の協力を得ているが、ホーム側が同行することもあり、臨機応変の対応である。主治医宛てに情報提供書の作成をし、詳しい利用者情報を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日、バイタルチェックを実施し利用者の状態を観察記録を行い、情報を共有し、気になる部分は看護師に報告し適切な対応ができるように取り組んでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院入院時は、病院の連携室の職員と連絡調整を行い、退院の時期を調整したり、連携病院の研修会に参加して、協力態勢を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りケアの研修会や勉強会に参加したり、家族や利用者からも終末期について話し合いを持ち職員とも情報を共有しながら、利用者、家族の思いを大切にしながら取り組んでいる。</p>	<p>看取りの経験もあり、看取りケアマニュアルを作成し、研修や勉強会を通して、職員の不安の軽減に繋がる体制づくりに配慮している。「重度化、看取り支援に関する意向確認書」を作成し、状態変化の都度、家族、主治医との連携を密に採りながら、全員で方向性を共有し、家族の要望に添える様にホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応ができるように、消防署職員による救急蘇生の訓練やAEDの使用方法について研修を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間に消防署職員、スタッフ、運営推進委員の方と一緒に消防訓練を実施し、対応を検討している。	消防署立会いの定期訓練を年2回行い、運営推進会議と合同で行う事もあり、家族、地域住民の参加を得ている。運営推進で地域の役割分担を決めたり、自主訓練も実施しており、とっさの対応の仕方や反省点を改善点に繋げる努力をしており、利用者の安全を第一に考えた取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場の勉強会で利用者の人権に配慮した対応(言葉掛け、ケア等)について話し合い、それぞれが、利用者にとって良い環境人になれるよう取り組んでいる。	敬意を持った言葉かけや、優しさを持って対応するケアを心がけており、排泄誘導時の羞恥心やプライドには特に配慮し、管理者は現場での気付きにはその都度、注意を促し、職員の意識、知識の向上に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中から、情報を収集したり家族から情報を得たりして、できるだけ本人の自己決定ができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や、レクリエーションや体操などの参加など本人の意志を聞きながら無理強いをしない対応を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の使い慣れた化粧道具を使用したり、季節にあったおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々人の好き嫌いや制限食を把握し、季節の食材など取り入れた食事を提供し喜ばれている。	ツワむきや切り干し大根、魚をさばいたりテーブルを拭く等の作業は利用者の楽しみや張り合いの持てる時間である。運動会や花見の手作り弁当や多彩な行事食を含め、地元の新鮮な魚や食材は利用者の元気の源になっている。家族との外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを把握し、美味しく食事が取れるように喉ごしの良いものを工夫したり、日々の食事、水分量などのチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個人の能力にあった、口腔ケア実施し、口腔内の清潔を保つことができるように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じた排泄のケアを実施している。日中はできるだけトイレ誘導を実施し、プライバシーに配慮したケアを心がけている。	個々の排泄のパターンやサインを職員間で共有し、適時の声掛けや誘導で日中はトイレでの排泄に向けた支援が出来ている。利用者の自信や誇りを大切にしながら継続や改善に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や芋類、牛乳やヨーグルトなどの摂取や、毎日体操など取り入れて、できるだけ自然排便があるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間や曜日を決めてあるが、利用者の体調や希望を聞きながら、時間曜日に関係なく、いつでも入浴ができるようにしている。	基本の入浴回数や曜日は決まっているが、利用者の身体状況や希望に応じて、柔軟な対応をしている。異性介助への配慮や入浴剤の使用で利用者が入浴に負担を感じない様にゆったりと楽しんで貰える工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり布団の調整を行い、天気の良い日は、布団を天日に干したり、シーツを洗濯したりして気持ちよく休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師にセッティングしてもらい、服薬時はスタッフ2人で確認し服薬事故が起きないように注意しながら援助をしている。薬の作用、副作用についての勉強会も実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望があれば散歩をしたり、移動販売でお菓子を購入したり等支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて、家族に外出をお願いしたり地域の祭りや運動会など出かけることができるように取り組んでいる。	季節によっては鳥のさえずりが聞こえ、季節の花や野菜をまじかに感じ取れるベランダや花盛りの庭での外気浴を楽しむ事も多い。海岸沿いのドライブや自宅に立ち寄ったり、スーパーへの買い物等、希望により個別支援にも力を入れており、なるべくホームに閉じこもらない生活の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1号棟の方はお金を管理している方はいない。希望の買い物があれば、家族との相談のうえ購入し立て替え払いにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自分の携帯電話を持っている方や、電話を希望するする方は、スタッフの支援により、いつでも家族と連絡がとれるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日、日勤スタッフで玄関、廊下、ト リ、居室など掃除を行い、天気の良い日は利用者の方と庭掃除を実施したりして、清潔に心地よく過ごすことができるようにしている。</p>	<p>2ユニット共に、ホール全体の至る個所が清潔に保たれ日頃の徹底した清掃管理が伺える。リビングは明るく、ウッドデッキのベランダからは鳥のさえずりも聞こえ自然を感じ取れる。テレビ観賞やマッサージ機でリラックスしたり、職員との会話も楽しみながら、利用者は思い思いの場所でゆったり暮らしており、清潔で心地よく過ごせる共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>談話室で家族と会話を楽しんだり、自室でテレビを見たり、昼寝をしたりして、自分の好きなように過ごせるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使い慣れた、ベッドや寝具を持って来て頂き使用し、安心して気持ちよく休めるようにしている。</p>	<p>出窓があり、明るく程よい広さの居室である。携帯電話やテレビ、冷蔵庫など利用者個々のニーズに合わせ、使い慣れた品々が持ち込んでいる。位牌を置いて花やお茶を供え、手を合わせる利用者もあり、個別性があり、落ち着けるプライベート空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は全面バリアフリーで、利用者個々人の能力に応じて、デッキでの洗濯物干しやたたみ、食前食後のテーブル拭きや下膳、台所で魚のこしらえなど楽しみや生きがいを感じて頂けるように取り組んでいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない